NISSHA

NISSHA 株式会社
「2018 年 12 月期決算説明会」
質疑応答の要旨
（2019 年 2 月 14 日開催）

Q1. 2019 年度のディバイス事業におけるスマートフォン向けの競合の参入と単価の見通しはどうか。
A1. 競合の参入は想定していない。大きな単価の下落は想定していない。

Q2. 1 年前と比べてディバイス事業の想定に変化はあるか。
A2. スマートフォン向けの需要の季節変動（上期と下期の変動）が想定より激しい。そのため固定費のコントロールが想定以上に難しい。

Q3. ディバイス事業におけるスマートフォンの需要をどうみるか。
A3. 期中における数量は変動するが、総需要の見立ては市場のコンセンサスと大きな隔たりはない。

Q4. 新しいタッチセンサーの技術が出てくれば脅威となるか。
A4. 技術の進歩は常に脅威となり得る。

Q5. タッチセンサー用フィルムに新しい材料が採用された場合、どのような影響があるか。
A5. 当社は材料にセンサーのパターンニングを行う立場であり、その技術力は高いと考える。どのような材料が採用されても対応できる。

Q6. 自動車向けなど IT 市場以外のタッチセンサーにも注力していくのか。
A6. 注力していく。自動車は IT に比べて需要が安定しており、ライフサイクルも長い。

Q7. 2019 年度上期は 2018 年度比で売上は上昇するが、利益への影響が少ないのはなぜか。
A7. 工場の稼働率に関わる問題。利益を創出する大きな要素である工場の稼働率が上期は昨年より低下する見通しであるため。

Q8. メディカルテクノロジー事業は 2019 年度の利益水準はどうか。
A8. EBITDA マージンで 9.6%の見込み。

Q9. 産業資材事業で昨年発生した海外の品質コストは 2019 年度はどのようになるか。
A9. 品質コストは一気に解消するものではないため、昨年度の品質コストのおよそ半分を改善していく計画。

Q10. 2019 年度の減価償却費予想が 2018 年度比で増加する要因は？
A10. 2019 年度に計画されている設備投資を全て実行した場合の減価償却費を予想額としてい

る。設備投資計画は上限値を示しており、今後の精査によって減少するかもしれない。

Q11. Lens Technology との JV の稼働を業績計画に織り込んでいるか。
A11. 業績計画には織り込んでいないが、稼働の準備は順調に進んでいる。

Q12. 2019 年度の為替前提は 1 ドル 105 円とのことだが、為替感応度はどうか。
A12. 1 円の変動で売上高で 6 億円程度、営業利益で 0.7 億円程度。

以　上